

皮 膚 科

【実習目標】

一般目標：

皮膚科診療の実際を介して、医療全体における皮膚科学の役割を知り、医師として必要な態度および皮膚科的知識、技能を体得する。

到達目標：

1. 良好な人間関係のもとで患者、医師、およびその他の医療従事者とのコミュニケーションをとることができる。
2. 患者の立場に配慮しつつ、皮膚病変の所見を正しく観察し、記載することができる。
3. 皮膚症状から疑うべき内臓病変、および全身疾患の部分症状としての皮膚症状について説明できる。
4. 皮膚病変に関連して必要な身体所見をとることができる。
5. 患者に関する個々の情報を適切に収集、整理、関連付けをして問題点を抽出することができる。
6. 皮膚病変から皮膚悪性腫瘍およびその鑑別疾患を適切に想起することができる。
7. 皮膚を用いたアレルギー検査を行うことができる。
8. 基本的な創傷処置および軟膏処置見学する。
9. 手術の目的や手技を説明することができる。

【実習内容】

1. 実習期間中、各人1人の入院患者を受け持つ。
2. 受け持ち患者の疾患および関連疾患について学習し、患者の病歴の聴取、診察を行い、診療計画を立て、検査、治療法の実際を見学、補助、または指導医の指導・監視の下に施行する。
3. 初診から現在までの経過における臨床症状、検査データ、問題点について整理し、現時点における課題と今後の治療計画について指導医と討議する。
4. 各学生について実習期間中に実習態度、知識、問題解決能力などを評価し、卒業試験の成績に反映させる。
5. 指導医の指導のもと、相互の生体を用いたアレルギー検査等を実習する。
6. 皮膚科外来において、外来患者に対する検査・処置・手術の見学または補助を行う。
7. 主要皮膚疾患の皮膚病理組織を観察し、指導教官の指導のもとに皮膚病理診断法を学習する。
8. 手術室において実際に手術を見学し、手術の目的や方法、手技を理解する。
9. 実習終了時に担当患者のサマリーを提出、発表し、情報の統合と問題解決能力の訓練を行う。

【日程表】

	9:00	9:30	12:00	13:00	14:00	15:00	16:30	17:30	
月	外来実習			入院症例説明・ オリエンテーション (医局セミナー室)			皮膚病理実習 (医局セミナー室)	カンファレンス (医局セミナー室)	
火		カンファレンス・ 教授回診 (医局セミナー室)	昼 休 み	手術見学		病棟実習			
水	外来実習			手術見学		病棟実習			
木	外来実習				アレルギー検査実習 (外来)		病棟実習		
金	病棟実習			病棟実習		レポート発表・総括 (医局セミナー室)			

I. 患者と接する内容

- ① 外来患者予診(適当な症例がある場合)
- ② 入院患者問診
- ③ 簡単な器具(聴診器、血圧計など)を用いる全身の診察
- ④ 処置(外用療法、包帯交換、ガーゼ交換など)
- ⑤ 手術見学
- ⑥ その他

II. 学生相互を対象とする内容

- ① 採血
- ② アレルギー検査
- ③ その他

III. 生体と直接は接しない内容

- ① 病理標本観察
- ② 検査(真菌検鏡、検尿、検便など)

IV. その他

- 注) 1. 外来実習では1診見学の他、処置見学および介助を行う。
2. 学生1人につき病棟患者1名を割り当て、主治医の指導のもと、実習期間中にその症例のケースレポートをまとめて発表する。

【注意事項】

1. 集合場所：月曜日 9:00 皮膚科外来（月曜日が休日の場合は火曜日 9:30 皮膚科医局セミナー室）
2. 患者さんには丁寧な言葉、態度で接すること。
3. 服装などは、患者さんに不快感を与えないように心がけ、白衣を着用し、ネームプレートをつけること。ヒールや、底が固く歩くと音がする靴は不可。サンダルも不可。長髪は束ねる。また髪留めは髪と同系色のシンプルな物を使用し、リボンや大きな物は避ける。
4. 火曜日午前の病棟回診で、患者さんについて質問を行い、ディスカッションへの積極的な参加を心がけること。
5. やむを得ず欠席する場合はその旨申し出ること。正当な理由のない欠席や遅刻は評価の際に減点の対象となる。
6. 外来実習の準備として、特に下記の疾患について、病態、診断、治療などについてよく理解しておくこと。自分の知識が不十分だと感じる場合は、教科書や系統講義の際に使用したプリントを持参してもよい。国家試験対策用のテキストでは不十分である。

外来実習に備え、特によく理解しておくべき疾患

アトピー性皮膚炎、蕁麻疹・血管性浮腫、乾癬、熱傷、悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌、皮膚悪性リンパ腫、自己免疫性水疱症、閉塞性動脈硬化症、糖尿病性壊疽、蜂窩織炎、単純・帯状疱疹、白癬、皮膚カンジダ症

参考図書など

- 新しい皮膚科学（中山書店）
- 標準皮膚科学（医学書院）
- マイナー皮膚科学（金芳堂）
- 皮膚病アトラス（文光堂）
- 系統講義で使用した授業プリント

【評価方法】

外来実習、手術見学、病理およびアレルギー検査実習、レポート発表・総括についてはそれぞれの担当教員が積極性・態度、知識について毎日評価する。正当な理由なく欠席した場合、休んだ日の評価点は 0 点となる。レポートの内容に関しても評価を行い、これらを合計して 100 点満点で計算する。正当な理由のない欠席は 1 日につき 10 点、遅刻は 1 日につき 5 点を合計点から減点する。最終的な合計点 60 点以上を合格とする。

【担当教員】

教授 秀 道広 (広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 皮膚科学)
准教授 田中 暁生 (広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 皮膚科学)
助教 河合 幹雄 (広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教 高萩 俊輔 (広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 統合健康科学部門 皮膚科学)
助教 岩本 和真 (広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教 菅 崇暢 (広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教 平郡 真記子 (広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教 森桶 聡 (広島大学病院 皮膚・運動器診療科)
助教 壺井 聡史 (広島大学病院 皮膚・運動器診療科)

【連絡先】

皮膚科 教務担当 森桶 聡

電話: 082-257-5238 皮膚科医局(平日 8:30~17:00)

e-mail: morioke-hma@hiroshima-u.ac.jp